

北海道大野農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 6 年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	農業クラブ活動や資格取得を充実させ、主体的学習意欲を高め、進路実現を目指す。	アグリマイスター顕彰制度・農業技術検定を積極的に取り組むことが出来た。	農業クラブ活動や資格取得において、進路実現を目標とし、より主体的な活動となるような指導体制作り。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	GAPやSDGs、みどりの食料システム戦略を意識させ、農業の面から世界を意識できるような農場の充実を図る。	専攻班活動をはじめとして実習時においてもGAPやSDGsを意識した活動を行うことが出来た。	認証農場以外での、GAPへの取り組みの充実と生徒への指導。	4
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	GAPを理解し、地域の特産物を広められるような人材育成を目指す。	講演会や4Hクラブとの交流などを実施し、1年次より地域農業を意識させた研修を実施できた。	農業高校から、GAPへの取り組みをとおした安全安心な地域特産物の発信。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	6次産業化・農福連携を意識しながら、GAP・HACCPなど学科の特徴を生かし農業の魅力を伝え農業後継者や関連産業従事者の育成を図る。	各種学校等との連携を図り、農福連携を考えさせる事業を継続し実施することが出来た。	GAP・HACCPを意識した教育を実施し、その教育内容を活かした進路実現。	3
Ⅲ 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	GAP・SDGs、みどりの食料システム戦略を通して国土保全に興味関心を持たせ、農業の面から地球環境保全に取り組む態度を育てる。	複数の専攻班がみどり戦略学生チャレンジにエントリーし、農業の面からの環境問題への自主的に取り組みむことが出来た。	自分たちの将来に関わることをであることを理解させ、農業の面から見た環境問題への教育の充実を図る。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域特産物を用いた食育教育を充実させ、農と食の大切さを幅広い年代に伝える。	幅広い年代への食育教育が計画どおり実施できた。	地域振興を目指し、地域特産物を活用した新製品の開発および外部へのPR。	3
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを用いた学習を充実させ、これからの時代に対応できる農業感を持った人材を育成する。	ドローンの講習会を実施し、スマート農業の一端を体験し、新しい農業感を持つことが出来た。	実際に農場でICTを用いた実験実習等で実施し、効果的な学習の充実。	4
Ⅴ 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	安全教育を徹底し、地域防災を意識した危機管理能力の向上を目指す。	生徒・職員がGAP等のリスク評価を活用し、安全な実習に望むことが出来た。	農業の多面的機能を理解し、地域防災への理解の深化。	5